# イメージ調査による水辺景観の評価

秋田大学　正 員 清水浩志郎　石井千万太郎　木村　一裕
学生員　○水島　晃宏

## 1．はじめに

明治以降の都市化の進行は、河川などの水辺を人々の目から遠ざけ、戦後その傾向はますます顕著なものとなった。ところが近年になり、都市の中の水辺環境を見直す動きが全国的に広まってきた。

そこで本研究では、過去の景観と現在のそれとを比較・分析することにより、都市化の進行が水辺環境に与える影響を認識し、今後の水辺環境整備に対する検討を加えることを目的とした。

## 2．調査の概要

本研究では、景観のイメージを把握するためにＳＤ法によるアンケート調査を行なった。調査対象地点は都市部の水辺として秋田市の旭川と千秋公園の堀の２地点を選定し、各景観を表－１に示すように過去と現在で３枚づつ、計12枚のスライド写真で示した。次に、形容詞対としては図－１に示したように14個で、５段階評価で回答してもらった。また対象地点が秋田市内ということを考慮して、被験者として秋田市在住または通勤・通学する男女81名とした。

表－１　対象景観

| 対象No. | 対象景観 | 写真の内容 |
|---|---|---|
| No.1 | 旭川 | 橋上景観 |
| No.2 | 旭川 | 護岸の様子 |
| No.3 | 旭川 | 家並の裏面の様子 |
| No.4 | 旭川(昔) | 川に面した家並 |
| No.5 | 旭川(昔) | 橋の様子 |
| No.6 | 旭川(昔) | 護岸工事以前の様子 |
| No.7 | 千秋公園 | 道路沿の堀の様子 |
| No.8 | 千秋公園 | 建物と堀の様子 |
| No.9 | 千秋公園 | 街並と堀の様子 |
| No.10 | 千秋公園(昔) | 道路沿の堀の様子 |
| No.11 | 千秋公園(昔) | 建物と堀の様子 |
| No.12 | 千秋公園(昔) | 街並と堀の様子 |

1　生活感のある　―　生活感のない
2　美しい　―　みにくい
3　親しみのある　―　よそよそしい
4　好きな　―　きらいな
5　個性的な　―　平凡な
6　ざわざわした　―　ひっそりとした
7　まわりと調和した　―　まわりと不調和な
8　活気のある　―　沈んだ
9　雄大な　―　こじんまりとした
10　やわらかな感じ　―　かたい感じ
11　広がりのある　―　閉ざされた
12　整った感じ　―　ごみごみした感じ
13　心安らぐ　―　いらいらする
14　力強い感じ　―　弱々しい感じ

図－１　形容詞対

## 3．分析結果

1)単純集計の結果

現在の旭川（No.１～No.３）の３景観は、ともに「生活感のある」という尺度には高い評価を示しているが「美しい」「好きな」については、低い評価を示し、とくにNo.３の景観ではその傾向が顕著に表れている。また全体的に、空間性を示す「広がりのある」という尺度も低い評価である。

過去の旭川（No.４～No.６）では、No.４と５の景観は全般的によい評価を得ている。とくに「やわらかな感じ」「生活感のある」「親しみのある」が高い評価を示している。これは家と水際が接近していること、まわりに緑が多いこと、建物が木造構造物であることが影響していると推察される。

現在の千秋公園の堀（No.７～No.８）の３景観は、ともに異なった評価となっている。No.８の評価はほぼ全ての尺度について低い値を示している。これは建物が奥にある公園を隠し、堀と緑をさえぎる形で存在しているためと考えられる。一方、No.７と９の景観は、おおむねよい評価を得ている。これは歩道と水際が近いこと、まわりに高いビルが少ないことが原因と考えられる。

過去の千秋公園の堀（No.10～No.12）の３景観ともによくも悪くもない景観であるが、No.11の景観では「個性的な」の評価が高い。これは建物が洋館風の造りのためで、このことが景観全体の評価を高めていると考えられる。

2)因子分析の結果

次に調査結果をもとにして因子分析を行なった。因子の数は、固有値が 1.0以上の３因子とし表－２に因子負荷量を示す。表より第Ｉ因子は、「親しみのある―よそよそしい」などの親近感や総合評価を表わした因子として"親近性因子"、第Ⅱ因子は「広がりのある―閉ざされた」などの空間性を表わしているので"空間因子"、第Ⅲ因子は「活気のある―沈んだ」などの活力を表わしたものとして"活動因子"と定めた。そして因子分析の結果をもとにして因子

スコアと距離スコアを求めたものを表－３に示す。因子スコアが、プラスの方向へ値が高くなるほど評価は低くなることを示す。また第２、第３因子を軸とした空間上での各景観の位置を図－２に示す。

以上の結果より、No.３とNo.８の２景観を見てみると両景観とも全ての因子が低い値をとっている。これらの評価が低いことは、"きたない景観"や"邪魔な建物" というレッテルが市民によって貼られており「きたない」「邪魔だ」という固定観念が強いため、第Ⅰ因子がとくに低い値を示していると思われる。同様にNo.１とNo.２の景観を比べてみると、両者は似通った景観であるが、第Ⅰ因子の評価が大きく異なっている。このことはNo.２の景観はNo.１のそれよりも草木が多く被緑率が高いためと考えられる。また、図－２より現在の景観は、おもに第３象限に位置するのに対して過去の景観の多くは、第１・第２象限に位置している。このことは、都市化の進行が、水辺の空間性を失わせるとともに、活動の場を他の場所に移したと考えられる。

## ４．まとめ

分析結果をまとめると次のようなことがいえる。

① 現在、悪いといわれている景観は、第Ⅰ因子に対する評価の低さが影響している。

② 都市化の進行は、水辺空間のもつ空間性・活動性を弱めている。

③ 水空間に緑が存在することによってそのイメージがかなりよいものに変わる。

今後の水辺環境整備について考察すると、まず、汚いとされる景観を早急に改善し "きたない景観"というレッテルをはがすと同時に、水辺に関する行事等を行うことによって人々の関心を引くことが必要である。また、水と緑のバランスを考えた整備も必要である。そして、とくに必要と考えられる場所に対してはまわりの建物の高さを制限するなどして水辺の持つ空間性を保つことも有効な手段と考えられる。このような整備を行い、親水性を高めた水辺環境を創造することにより、人々が再び水辺に集まるようになり、都市活動の中心として利用されるようになるであろう。

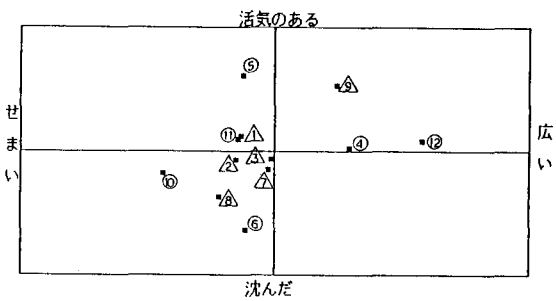
最後に本調査にあたり写真の使用を快く承諾して下さいました今村義孝氏ならびに無明舎出版、そして調査にご協力下さいましたみなさまに深く謝意を表します。

表－２　因子負荷量（バリマックス回転後）

| 形容詞対 | 第Ⅰ因子 | 第Ⅱ因子 | 第Ⅲ因子 | $h^2$ |
|---|---|---|---|---|
| 親しみのある | 0.7203 | -0.1311 | 0.1827 | 0.5694 |
| 好きな | 0.6834 | -0.4467 | 0.2859 | 0.7484 |
| 美しい | 0.5651 | -0.5545 | 0.3035 | 0.7190 |
| まわりと調和した | 0.5235 | -0.3658 | 0.2548 | 0.4728 |
| 心安らぐ | 0.5400 | -0.6050 | 0.2244 | 0.7079 |
| 広がりのある | 0.2478 | -0.5719 | 0.5057 | 0.6442 |
| 整った感じ | 0.2708 | -0.5496 | 0.3871 | 0.5252 |
| やわらかな感じ | 0.4653 | -0.5062 | 0.1434 | 0.4933 |
| ざわざわした | 0.1990 | 0.5550 | 0.4444 | 0.5451 |
| 雄大な | 0.0912 | -0.4342 | 0.5804 | 0.5337 |
| 活気のある | 0.4139 | 0.2718 | 0.6129 | 0.6208 |
| 力強い感じ | 0.0991 | -0.1310 | 0.5115 | 0.2886 |
| 生活感のある | 0.4389 | 0.3094 | 0.0535 | 0.2912 |
| 個性的な | 0.3147 | -0.1499 | 0.3180 | 0.2227 |
| 固有値 | 5.734 | 1.921 | 1.283 | |
| 寄与率　(%) | 64.15 | 21.49 | 14.36 | |
| 累積寄与率 (%) | 64.15 | 85.64 | 100.0 | |

表－３　因子スコアおよび距離スコア

| 対象No | 第Ⅰ因子 親近性 | 第Ⅱ因子 空間性 | 第Ⅲ因子 活動性 | 距離スコア |
|---|---|---|---|---|
| No.1 | -0.076 | 0.129 | -0.124 | 0.194 |
| No.2 | -0.483 | 0.148 | 0.065 | 0.509 |
| No.3 | 0.527 | 0.010 | 0.059 | 0.558 |
| No.4 | -0.024 | -0.296 | -0.029 | 0.298 |
| No.5 | -0.124 | 0.122 | -0.611 | 0.635 |
| No.6 | 0.148 | 0.113 | 0.640 | 0.666 |
| No.7 | -0.484 | 0.021 | 0.151 | 0.507 |
| No.8 | 0.699 | 0.215 | 0.374 | 0.822 |
| No.9 | 0.205 | -0.247 | -0.535 | 0.623 |
| No.10 | 0.040 | 0.438 | 0.179 | 0.475 |
| No.11 | 0.160 | 0.139 | -0.097 | 0.232 |
| No.12 | -0.179 | -0.580 | -0.082 | 0.612 |




○印は過去の景観
△印は現在の景観

図－２　Ⅱ・Ⅲ軸による水辺景観のイメージ

【参考文献】 1)岩下豊彦：ＳＤ法によるイメージの測定，川島書店　2)西田春彦，新 睦人：社会調査の理論と技法（Ⅱ）